

.....編集後記.....

◆地球温暖化のせいでしょうか、山の木々が爆発したように緑を拡大しております。わが家の金木犀も例年になく成長が早くてやたらに枝を伸ばしております。少しは切りたいのですが、今鋏を入れると秋に花が咲かないのではないかと憂柔不断の日々を送っています。

◆二人の友人から大学の教養部の改組にともない農学部の森林資源学科に転任されたとの通知をもらいました。地質学と森林資源、ともに地球上での現象の一部ですから無関係とは言いませんが地質屋が一家を構えることができなくなっていることに寂しさを感じます。

◆さて、今月号は斎藤・利光氏による付加帯の話から始まります。第2図Aの整合的に重なるチャートと粗粒碎屑岩の互層の岩相境界が衝上断層の繰り返しであるとは、遠い昔に地質を学んだ私には大きな驚きです。山歩きだけでは、地史を組み立てることができない時代になったようです。

◆野田氏が探査と調査の違いについて地熱探査を例として考えを述べておられます。この記事で指摘されているように、地質屋は何時、何が起こったかを研究してきましたが、社会が必

要とする情報に発展させることが十分ではなかったよう思います。地質情報と社会生活の関連を考えると、実に含蓄のある提言です。

◆15年も前になるでしょうか。小笠原海域の海底熱水鉱床調査計画を説明したときに、著名な鉱床屋から「そんなものは存在しない」と反対されましたが、現在では、彼の予想に反して、現在も活動している海底熱水鉱床が日本近海海底からも発見されています。飯笹氏は海の神様に長い間見放されておりましたが、彼の執念に神様が根負けしたのでしょうか、新しい鉱床を明神海丘で発見したとのこと。陸上の黒鉱鉱床にもチムニーが発見されたことがあるそうですので、みなさんも挑戦してみてくださいか。

◆外国の地質・鉱物資源情報は徳橋・鈴木氏による内モンゴルと須藤氏によるタイ情報です。鉱物資源問題を考えるとき、野田氏の言葉を借りれば、どこに、なにが、どのくらいあるかを知ることが大切ですし、さらに、輸出できるだけの余剰があるか、ないかを知ることが重要でしょう。今後、外国の資源情報は益々重要になるでしょう。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

幹事：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

委員：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第514号	1997年	6月号
	定価 ¥785(本体価格 ¥748)	〒実費	
1997年6月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		
	Tel. (03)3265-0951(代表) 〒102		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン		

© 1997 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。